

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し						掲載ページ
							66
コスト	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	母子保健	母子保健	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。						
活動計画	母子保健調査研究事業（小児保健研究会）において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】		
	問診項目の見直しの推進（検討会の設置）	3 回	検討会の実施	4 回		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施し、乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援に繋げることができることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）					順調		
	（最終目標と最終年度）					やや遅れ	順調	
	（最終目標と最終年度）					遅れ		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	検討会で話し合った結果、問診項目の見直しだけでなく、確実な問診等により、発達障害の早期発見の精度を上げることが必要だと判断しました。医師会のマニュアル検討委員会で検討を行い、幼児健診の健診項目及び健診時のマニュアルの見直しを終了したので順調としました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保健指導をより効果的に行うため、関係機関と連携し、事業目的は達成したため、事業は平成25年度で終了します。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

問診項目の見直し事業としては平成25年度で終了します。今後は、改訂した問診結果を保健指導にいかしていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ
							66
コスト	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	母子保健	母子保健	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わいわい子育て相談の実施回数 発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	104 回	168 回	104 回 61.9 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	わいわい子育て相談の参加者数 発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の参加者数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	364 人	増加	352 人	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業であり、開催回数を増やすためには調整が必要であることから現状維持に留まりました。その後のフォローの場である「親子遊び教室」については、これまで実施していなかった門司区でも開催されるようになったことから、社会資源の充実とみなし順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 医療関係者等の専門職が実施しており、多職種による多角的視点による相談支援がこの相談の特徴なので、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防につながります。発達が気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達が気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							66		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,431	千円	2,901	千円	施策名	母子保健	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	直営保育所で「親子通園クラス」を運営し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。					
活動計画	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。						
活動実績	活動結果は下記のとおりです。						
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	親子通園クラスの利用者数	269 組	200 組	217 組	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示すには、親子通園クラスの利用者数が適当と考えられるため、指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)7ヶ所、平成26年度			108.5 %			
	(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ127組、東篠崎保育所は延べ90組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も62%を超え、移行支援としての成果も出ていることから順調としました。なお、本事業は全国的に先駆けた事業です。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。